

「リニア中央新幹線三重・奈良・大阪建設促進連携会議」 設置趣意書

リニア中央新幹線の整備について、これまで、三重県・奈良県・大阪府の自治体及び経済団体が一丸となって「三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進大会」を開催し、要望を行う等、一日も早い全線開業の実現に向けて一致結束して活動を行ってきた。

令和5年12月には、JR東海が「計画段階環境配慮書」の作成に向けた作業として、三重県及び奈良県において概略ルートの絞り込み・駅位置選定のための地質調査を開始し環境影響評価に着手した。

令和6年6月には沿線自治体の知事等で「リニア中央新幹線建設促進期成同盟会総会」を開催し、リニア中央新幹線の早期全線整備に向けた決議を行うとともに、国に対しても要望等を行った。

また、政府の「経済財政運営と改革の基本方針2024」（骨太の方針）において、引き続き最速2037年全線開業を目標とすること及び、名古屋以西について駅の整備に関する検討の深度化など、沿線自治体と連携して駅周辺を含めたまちづくりを進めることが明記された。

名古屋以西の駅位置は同区間のルートに相互に影響することから、一日も早い全線開業を実現させるためには、名古屋以西の詳細なルート・駅位置確定に向けた大きな一歩となるこれらの動きを捉え、沿線府県の現況や行政課題について、より一層、連携を強化していく必要がある。

そこで、名古屋・大阪間の早期着工に向けた準備をさらに加速化させ、沿線府県の連携をより深める場として「リニア中央新幹線三重・奈良・大阪建設促進連携会議」を設ける。

令和6年7月18日